日本犯罪心理学会主催　第3回全国研修会

刑事司法分野のより良き実践をめざして

エビデンスをつくり・つたえ・つかおう

わが国の犯罪・非行臨床の現場にもエビデンス・ベイスト・プラクティス（Evidence-Based Practice: EBP）が浸透し，その重要性についての共通認識が形成されつつあります。それに伴い，処遇効果を評価しようとする動きも活発化しています。しかし，正確な評価のためには，国際的な研究の水準に見合った厳密なデザインによる臨床研究が不可欠です。さらには，EBPにおいてはエビデンスを発信したり，エビデンスの質を見きわめたうえでそれを活用したりする技能も求められます。このような，エビデンスを「つくる」「つたえる」「つかう」ための技能は，EBPにおいては必須のものであり，今後のEBPを推進するためには，現場の専門職がぜひとも身につけなければならないものであるといえます。 そこで，第１部では，筑波大学原田教授から刑事司法分野におけるEBPの現状や課題について整理していただき，第２部では，フィールドを異にする３名の専門家から，臨床実践とEBPとの好循環を育んでいくために実際に手掛けているプロジェクトを御紹介いただき，ステップアップに資する具体的手がかりを得る機会にしたいと思います。ふるってご参加ください。

日時　2020 年 7月5日（日）

第１部　基調講演　10:00～12:00

原田　隆之　（筑波大学）

第２部　シンポジウム　13:00～17:00

宮路　天平（東京大学大学院）

菊池安希子（国立精神・神経医療研究センター）

岡　秀明（法務省矯正研修所効果検証センター）

会場　日本女子大学 目白キャンパス 新泉山館１階大会議室

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

▼ 東京メトロ副都心線雑司が谷駅（３番出口）徒歩８分ほか

参加費　2,000 円（学生会員は，学生証提示で1,000円）※ 当日，受付にてお支払いください。

定員　100 名　※ 定員に達し次第，受付を締め切らせていただきます。

申込

【注意】ご参加は，本学会の会員に限ります。また、事前のお申込みが必要です。

お申込みは，日本犯罪心理学会のウェブサイトにて，4月20日（月）～5月31日（金）の間に，所定のフォームに必要事項を入力の上，送信してください。後日，参加の可否につきまして，メールで個別に御連絡させていただきます。なお，本研修会は，臨床心理士研修ポイントを申請する予定です。

詳細は，https://www.jacpsy.jp/training/ を御覧ください。

お問合せ　本研修に関するお問合せは hanshin_kensyu@aol.jp まで